

(様式1)

2026年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 069	提案機関名 神奈川県山林種苗協同組合
要望問題名 無花粉ヒノキ挿木の発根促進について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 昨年実施した無花粉ヒノキの挿し木繁殖は、通常の挿し木苗と比べ発根率が低く生育不良が多く発生しています。無花粉ヒノキの需要は年々増加しているため、安定供給に資する繁殖率の向上に特筆すべき注意点のご指導や、新たな育成方法の研究開発をお願いしたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	神奈川県自然環境保全センター	担当部所	研究企画部
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	ヒノキのさし木は、スギと比較するとやや難ではありますが、当該の無花粉ヒノキ「丹沢 森のミライ」は比較的発根率が高い系統であり、当センターの開発したコンテナ容器への直挿し試験でも9割近い発根率が得られています。昨年度のさし木発根率の低下は、生産者による差が大きいことによると認識しており、普及部門と連携しながら生産者への指導に努めて参ります。また、近年様々な育苗資材が開発されていることから、こうした資材の活用も含め、さし木生産技術の改善に向けて検討を進めてまいります。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			